浜中町立茶内小学校「学校だより」
THE　茶内小　TIMES
令和４年（2022年）６月６日発行　VOL 10

どんな教師がよい先生？

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

２人の中学校の社会科の先生（架空の教員）に登場してもらいます。保護者の皆さん、地域の皆さんは、どちらの教師がよい先生だと思いますか。

Ａ先生は、放課後遅くまで仕事熱心。宿題等へのコメント書きも丁寧です。土日は顧問をしているサッカー部の練習試合や大会をよく組んでいます。平日はほとんど毎日、朝練と放課後で２～３時間前後、熱血指導します。授業は、ことさら悪いというわけではありませんが、覚えさせること、知識を教えることにかなり重きを置いた、自身が子どもの頃に受けた授業のスタイルを続けています。生徒の中には、「歴史＝暗記物」として、嫌いになっている子どももいるようです。実際、午前中の歴史の授業では、睡魔との戦いに敗れ去る子どもがちらほら。

Ｂ先生は、美術部の顧問ですが、土日はやりません。休日には趣味の旅行によく出かけ、全国の史跡巡りをしています。本もよく読んでいて、最新の歴史学の知見にも詳しい様子。授業では、旅行中に撮った写真や動画も生かして、生徒を引き付けます。知識はもちろん大事ですが、好奇心を高めることが第一と考えています。いつもというわけにはいかないのですが、簡単な答えのない問いについて考えさせるグループワークもよくやっています。先日の問いは「織田信長はなぜ教科書に取り上げられているのか」でした。こういう授業で寝ている子どもはいません。

「どちらの教師がよい先生だと思いますか？」と問われてもなかなか難しいのではないでしょうか。そして、先生方に聞いても「Ａ先生のように部活動や宿題へのコメントも丁寧にやりたいし、Ｂ先生のように好奇心を育む授業をしたい」という答えが多いのではないでしょうか。

ここで大事にすべき点は、「教師の本業は何か」ということです。中学校や高等学校の教師の中には、「部活動指導をやりたいから教師になった」という人が少なからずいると思います。ここで取り違えてはいけないことは、「あなたはサッカー部の顧問として雇われたのではありません。社会科の教師として雇われている」ということです。昨年度、ある学校を訪問しているときに、同席していた教育長が「部活動指導だけやりたい人は、どうぞ教師を辞めて、部活動指導員や外部コーチになってください」と言われてました。この言葉は、「教師の本業とは何か」ということに関わるものだと感じました。

「教師の本業」という視点からは、「子どもたちのためならば」と考え、授業に関する知識やスキルを常にアップデートしていく、そんな先生が理想なのかもしれません。

では、そんな理想の先生になるためには何が必要でしょうか。それは「時間」です。「教師の本業」に打ち込める時間をいかに確保するか、真剣に向き合わなければなりません。